

## ○環境大臣賞

### 1. 団体賞

とやまけんてんもんがつかい  
★富山県天文学会（富山県）

天文同好会として、50年以上にわたり県内各地で活動、小学校や宿泊施設、地域団体等からの依頼を受けて、毎年数多くの移動天文教室や星空観測会、講演活動等を行っており、美しい星空の素晴らしさや星空観察の面白さについて伝えている。

富山県が推進する大気環境保全啓発事業「とやまスターウォッチング」には中心メンバーとして参画している。星空観察の手引書「星空観察のススメ」や、星の見やすいスポットをまとめた「とやま星空マップ」を天文・星空観察の専門家として監修し、富山の星空の魅力を伝えるとともに、美しい星空を守るための大気環境保全の重要性の啓発、光害への関心を高める取り組みにも貢献している。

### 2. 個人賞

こじま しげみ  
☆小島 茂美氏（香川県高松市）

自宅に25cmの反射望遠鏡を備えた私設の天文台を設け、これを子どもたちや地域の方々、アマチュア天文家などに開放し、天体観測や天体写真の撮り方を指導するなど、広く宇宙の魅力を伝えるとともに、大気保全の大切さへの関心を高める活動を続けている。

毎年200人以上が参加する「鬼無星を見る会」は、これまで35年間継続しており、星空観察の楽しさの啓発や地域のつながりにも貢献している。

「四国天文協会」設立時から香川県支部長や顧問として指導的な役割を果たし、大気環境保全の普及啓発にも長年取り組んでいる。

## ○全国協議会会長賞

### 1. 団体賞

いっばんしゃだんほうじん てんたいぼうえんきょうはくぶつかん  
★一般社団法人 天体望遠鏡博物館（香川県さぬき市）

公共施設の大型天体望遠鏡や個人の貴重な天体望遠鏡を譲り受けて移設・修復・保存・展示・実使用し、次世代へと繋ぐ活動を行っている。展示施設は閉校となった小学校の校舎をリユース、活動を活発化し永続させるために、幅広い年齢層でのボランティアスタッフを募集し育成している。

世界初の天体望遠鏡を展示品とする博物館を、アマチュアのボランティアによって開館、運営していることが注目され、メディアでも度々紹介されている。

展示品の天体望遠鏡を単に「見る」だけでなく、自ら望遠鏡を組み立てて操作する「体験」を通じて、天体観測のおもしろさ、自然の素晴らしさを知ってもらう活動を行っている。

### 2. 個人賞

ふじかわ しげひさ  
☆藤川 繁久氏（香川県観音寺市）

これまで日本人が発見した彗星は、現在までに約 85 個であるが、藤川氏はそのうちの 9 個を発見しており、存命の日本人では最多である。さらにそのうち 6 個の彗星には、藤川氏の名前が付けられている。近年は、新星や矮新星の発見にも力を入れており、2012 年以降、4 個の新星、2 個の矮新星を発見している。

個人の天文施設「ぼくらの星空」を子どもたちに開放するほか、市や小学校と協力して講演会や観望会を行うなど、広く市民に対して星空観察の魅力を発信している。

光害対策についても関心を持ち、夜間の過剰な照明やサーチライトの使用禁止等にも取り組んでおり、講演会等で光害の防止について訴えている。